

これからの新しい学校づくり

新しい学習指導要領で

学校が変わります

新学習指導要領では、子どもたち一人ひとりに「生きる力」を育てるために、現行の学習指導要領を次の4点から改訂しています。

- ① 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成。
- ② 自ら学び、自ら考える力の育成。
- ③ ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実。
- ④ 各学校が創意工夫を生かして特色ある教育、特色ある学校づくりの推進。

このねらいを達成するため、次のように学校の様子が大きく変わります。

- わかる授業、楽しい学校の実現
- 自ら学び自ら考える力の育成
- 特色ある学校づくりの推進
- 総合的な学習の時間の新設
- 学校完全週5日制の実施

市内の公立小・中学校では、平成14年4月から新しい教育課程が円滑に実施されるように、各教科・道徳・特別活動の指導計画・評価計画の作成や学校行事の再編、そして「総合的な学習の時間」の指導計画の作成や試行を行い、平成14年度からの新しい学校づくりに取り組んでいます。

三鷹市は、教育の充実・発展は三鷹市政の発展につながるものと捉え、新たな教育施策の実施に全力で取り組んでいきます。

↓指導室 ☎内線3247

総合的な学習の取り組み

「総合的な学習の時間」は、これまでと全く画一的と言われる学校の授業を変えて、地域や



「昔遊びを教わる子どもたち」

学校、子どもたちの様子に応じて、各学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動を行うことができる時間です。また、国際理解、福祉・健康など従来の教科の学習にまたがるような課題に関する学習を行うことができる時間です。そこで、いくつかの学校の取り組みを紹介します。

【地域の環境を生かして】

野川を中心とした大沢地域は、三鷹市の中でも自然が豊かな地域です。大沢地区にある、第七中学校、大沢台小学校、羽沢小学校では、「野川」をテーマに、それぞれの学校の子どもの興味・関心を生かした学習を行っています。

また、「総合的な学習の時間」では、学習の内容によって、地域の方々に、ゲストティーチャーとして参加していただき、専門的な知識を生かした授業をお願いしています。

そして、学習を通して、子どもたちと地域の方々の、かかわりを深めた活動を展開していきます。

【国際理解教育の一環として】

「総合的な学習の時間」の学習として外国語（主に英語）に親しむ活動を取り上げている学校もあります。子どもたちが、外国の先生と一緒に簡単な会話やゲーム、外国の学校生活の様子などを学習しています。



【情報機器を活用して】

また、「総合的な学習の時間」では、「コンピュータをはじめとするさまざまな情報機器を、子どもたちの調べ学習に活用しています。

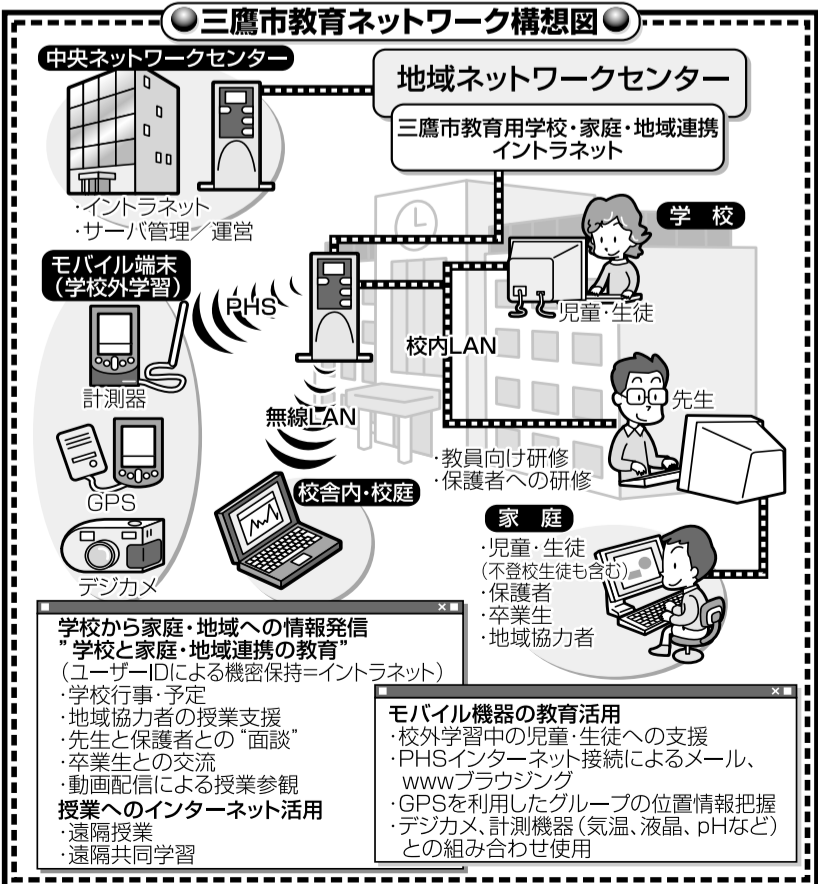
「Palm」と呼ばれる小型の携帯情報端末を使って、子どもたちが校外で調べる事柄を写真に撮ったり、インターネットに接続して情報の検索を行ったりのしています。



「学校・家庭・地域イントラネット」の教育ネットワーク「iNet」

開かれた学習環境づくり

今年9月から、小学校4校で、学校と家庭、学区の地域協力者の家庭とを、イントラネットの回線で結んで、学校、家庭、地域がもつ教育力を相互に活用しあったり、学校教育への地域・保護者の積極的な参画を求めて、地域に開かれた新しい学校づくりを行っています。



このイントラネットでは、学校だよりはもちろん、その日の学校での子どもたちの様子などをリアルタイムで情報提供することが可能になりました。さらに、学校と家庭、地域の方々の交流のためのホームページが設けられ、新たな地域内のコミュニケーションの場も開かれています。



↓指導室 ☎内線3247